

議会ニュース

・道外行政調査報告①

議員による道外行政調査は4年に1度実施しており、今回は10月2日から6日にかけて、7名の議員が中国地方の5市町村の行政調査を行い、第4回定例会において報告がなされました。
(掲載内容は報告書を要約したものです)

道外行政調査報告

「観光振興対策について」
津山市の教育について

観光振興の取り組み

各観光地を活用したイベントをはじめ、牛肉グルメ（ホルモンうどん、干し肉、そすり鍋）を活用した取り組み、歴史や文化、暮らしの体験プログラムを作成し、観光客の回遊性向上と滞在時間の延長を図った着地型旅行商品の開発などを行っている。

また、観光客の満足度を高め、リピーターを増やすため、観光ボランティアガイドの活動支援や人材育成に取組み、情報発信を生かした外国人観光客の誘致推進や、受入体制など環境整備の強化を図っている。

●津山城

本能寺の変で討死した森蘭丸の弟の森忠政が鶴山に築いた平山城で、城の周りには桜が植えられ、「日本さくら名所100選」、「日本100名城」に選定されている。市のシンボル、ランドマーク的存在。

「イベント」
さくらまつり、牛うまつり王選手権、花火大会、もみじまつり、ナイトイルミネーション、城泊

●城東地区

平成25年に、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、近年では古民家を改装したカフェや食事処、一棟貸の宿泊施設などの古民家も増えている。

●城西地区

令和2年に、国の「重要伝統的建造物群保存地区」に選定され、県内で初めて2か所の重要伝統的建造物群保存地区を持つことになった。

登録有形文化財に指定されている建物が立ち並び、レトロな街並みが観光客を引き付け、観光の財産となっている。

●津山まなびの鉄道館

国内に現存する扇形機関車庫の中で2番目の規模を誇る「旧津山扇形機関車庫」(1936年建設)や転車台(1930年建設・使用可能)、13両の車両を展示し、鉄道遺産を楽しんで学べる複合鉄道学習施設として平成28年に開設。

●津山ホルモンうどん

独自に開発した商品ではなく、もともと地元で根付いていた郷土料理で、各地のイベントで出店・提供して人気となり、平成21年に開催されたB級グルメイベント「B1グランプリ」において第3位に入賞し、その翌日からは市内のホルモンうどん提供店に行列ができる程となった。その経済波及効果は概算で、平成22年度において津山市内で約12億円となった。



津山市の取り組みについて説明を受ける

議会ニュース

・道外行政調査報告②

津山市が目指す教育

●津山市教育大綱（目指す人間像）

『自立』『つながり』『郷土愛』

●津山市教育振興基本計画

①教育活動の推進・充実

（自立・つながり・郷土愛をキーワードに人材の育成）

②教育環境の改善・充実

（施設・環境・連携の構築）

●令和5年度教育重点施策

・ICTを活用した授業改善

（個別最適な学びと主体的・協働的な学びの推進）

教育データの活用実証実験

として、東京学芸大学・NTT西日本等との共同事業を実施している。（学びのDX化）

教育重点施策を展開するにあたり、教師のマンパワーでは限りがあるので、ICT

を効率よく活用することにより、主体的・教科横断的な学びについて、体験をもって学習することができる。

〔VRを活用した体験型授業〕

・国語（狂言の物語を学ぶ）

・社会（狂言の文化を学ぶ）

・体育（狂言の型などを表現する）

VR映像に野村萬斎氏が出演し、狂言の型を披露する。

実際に狂言の型をやってみる

実際に行った型がいかにも本物と近いか点数化される。

※教科教育への研究材料として活用される。

■調査を終えての所感

城下町として様々な産業や文化が発展し、多くの観光資源を抱える一方、近隣に温泉施設等が隣接しているため、津山城を中心とした通過型観光地となっていたが、新たな取り組みとして「城泊」（津山城又は城下の古民家、武家屋敷などに宿泊できるイベント）

や、近年、宿泊施設ができたことで市内観光の入り込み客数が増えているとのこと。

また、B級グルメでおなじみの「津山ホルモンうどん」のヒットなど、時代の流れにうまく乗り、成功を収めている印象を受けた。

教育については、郷土愛を中心とした地域教育の取り組みや、実証実験としてVRを活用した学習プログラムなど、新しい教育の在り方を感じ取ることができた。

「ローカルベンチャー」

（起業・イターン）に力をつけて

ローカルベンチャー（起業・イターン）

2004年の合併協議会の離脱で自主自立の決意をし、総務省の地域再生マネージャー事業へ手を挙げ、「人と人のつながりを大切にすることで潤う地域産業（心産業）」をキーワードに地域活性化を模索する。

林業の村であることから、「百年の森林構想」を着想し、雇用対策協議会を設立し、地域外から人材を獲得する取り組みを行う。（イターン…都府県から西栗倉村で起業等を行う人材の獲得を目指す。）


●百年の森林構想

短期の経済視点ではなく、長期に渡って良い山を育てて林業市場を活性化し、行政（川上）が森林施行（補助事業）を実施し、民間（川下）が林業を6次産業化し、搬出された木材に付加価値を付け製品化するという、川上・川下の分業施策を図る仕組み。

あいたぐん にしあわくらそん
岡山県 英田郡 西栗倉村

人口 1,355人
世帯数 594世帯
面積 57.97km²

岡山県の北東端に位置し、兵庫県および鳥取県と県境を接する村。車で津山市まで1時間、鳥取県庁まで50分。村の面積のうち93%が森林の自然豊かな山村。



議会ニュース

・道外行政調査報告③



地元木材のぬくもりが感じられる村役場庁舎

ローカルベンチャー の考え方

当初は、村の主幹産業である林業を盛り立て、木材の大量生産・大量消費で村の活性化を図る風潮であったが、人口減少問題や合併協議会の離脱により、自主自立のためには村内の多様な事業を活性化するため、村で起業したいという人材を村外から迎え入れる動きに代わり、官・民・研究機関が一体となった起業希望者受入のシステムづくりが構築され、地域で自ら仕事をつくる「ローカルベンチャー」発祥の地となった。

基本は「百年の森林構想」からローカルベンチャーを増殖させ、地域課題の解消や、これまで地域になかった価値を積み上げていく仕組みを作り上げた事業であり、現在ではローカルベンチャー協議会も発足して全国に輪が広がり、道内では厚真町や下川町とも人材広域連携の取り組みを行っている。

■調査を終えての所感

中山間の村において、林業を中心に「百年の森林構想」を立ち上げ、付加価値形成のため、知恵を絞ってその価値を生み出した努力は、世代を超えて成し得ている地域の財産である。

また、村の人口を増やすことの施策だけではなく、村民が快適に暮らせるために様々な起業ができるような仕組みづくりを行っていることに感銘を受けた。

そこに住む人が、自分の好きな仕事をし、起業ができてさらに所得を目指して頑張ろうとする姿や、自然豊かな田舎でもその価値を自ら楽しみ、上質な暮らしをする（こ）は、ある意味贅沢なことなのかもしれない。

「北条砂丘風力発電の 地域エネルギー導入促進について」

北条砂丘風力発電所

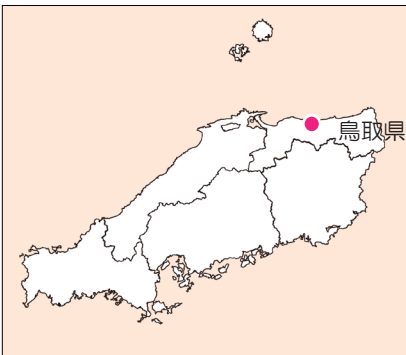
合併前の旧北条町の時代から、風が強い町と言われており、この強い風に着目し、平成9年から風力発電の検討へ、鳥取大学工学部林研究室が平成13年1月から4年かけて風速・風向調査を行い、年間平均風速5・68m毎秒という風力発電に適した場所であることが判明した。

この風力を活かして、「環境にやさしいまち」のシンボルとして旧北条町の北条海岸の海岸線に風車を設置する構想が始まり、平成14年には「北条町地域エネルギー研究会」を設置し検討を進め、近隣の環境問題や住民への説明会も行い、事業化が可能であるとの結論に達し、合併と同年の平成17年2月に着手、11月に風車が竣工し、現在は9基の風車が稼働している。事業期間は20年間、令和7年度まで。風車の規格は、ドイツのリパワー社製で、ブレードを含めた最大高さ103.5m、

とうはくぐん ほくえいちよう 鳥取県 東伯郡 北条町

人口 14,380人
世帯数 5,501世帯
面積 56.94km²

鳥取県の中部に位置し、北には日本海、南には畑の丘陵地帯が広がり、県内有数の畑作農業の町。平成17年に旧北条町と旧大栄町が合併して北条町となった。漫画「名探偵コナン」の作者、青山剛昌先生の出身地であり、「コナンのまちづくり」を展開。



議会ニュース

・道外行政調査報告④



ローターまでの高さ65m、回転口径最大幅77m、ブレード1個の長さ37m、年間売電電力量2万3900メガワットアワー、これは住民6600世帯分の電力を賄う能力であり、二酸化炭素削減量は1万3300トンに及び、事業費は約28億円、財源は補助金7億円（国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構）、公営企業債20・5億円となっており、電力の売電は中国電力へ変換した高圧電力を送電しているが、鳥取県中部で地域新電力「鳥取みらい電力」の令和5年4月からの稼働に伴い、「域内経済循環」を目指し、売電を切り替えている。

鳥取みらい電力は、倉吉市、北栄町、琴浦町の1市2町や県中部の企業、県生活協同組合、鳥取銀行が出資し設立されている。

風力発電の収支

発電量の実績は順調に推移しており、令和元年には累計で50億円達成、令和4年には65億円を達成した。

また、風力発電の事業会計から得た利益黒字部分5000万円を平成26年度より町の一般会計へ繰り入れており、令和5年度には累計で5億円を達成している。

その資金において、町の環境事業として自治会公民館への太陽光発電設置の助成、公施設への太陽光発電設備設置、防犯灯・学校の照明・公施設照明のLED化、小・中学校へのエアコン整備、電気自動車急速充電器維持管理、住宅省エネルギー改修促進補助金などの事業を展開している。

風力発電の事業期間

平成17年度から始まった風力発電事業が20年間の事業期間であるため、令和2年に地域住民を中心とする北条砂丘風力発電所設備更新検討会へ、事業継続及び設備更新についての諮問を行い、答申内容としては、「環境影響評価



北栄町の取り組みについて説明を受ける

に基づき適切な環境配慮を行うこと。採算性について十分検討すること。町民合意により計画を進めること。耐用年数が過ぎた風車の早期撤去を行うこと。」などが提出され、町では、事業継続の方向で風車の建て替えを予算化し議会へ提出したが、否決となった。（風車直近には山陰道の高速道路が建設中であり、地域住民からも心配の声があった。）

事業撤退のために積み立てを行っていた年間1億円を原資として、令和7年度には風車の撤去を実施予定としており、その後の事業継承については、町の事業としてではなく、民間事業者へ引き継ぐ方向で調整している。

■調査を終えての所感

人気漫画「名探偵コナン」の作者、青山剛昌氏の出身地であり、アニメのキャラクターが町のいたるところで見ることができ、県外からの観光客も多く訪れている。

風力発電が町で運営されているという、全国でも珍しい事例であり、北栄町へ通じる国道沿いに大きな風車が9基立ち並び、風の町という印象を受けた。


建設事業費が28億円で、中堅の町の財政からすると割と大きく、さらにメンテナンス費用となると売電額と比較し、費用対効果はどの程度かと疑問になったが、補助金を活用できたことや起債償還が終了していること、平成26年度より毎年5000万円を一般会計へ繰入し、各種環境事業へ配分していることなどを鑑み、資金循環型の環境施策であると感した。

この風力発電事業の年限が令和7年度とのこと、先の町議会へ事業継続の予算を申し出されたが、18年間の取り組みは、地域エネルギーとしての在り方など、環境施策も含め内外へ影響を与えているものと推察する。

議会ニュース

・道外行政調査報告⑤

※サステナブルとは、本来は「維持できる」「耐えうる」「持ちこたえられる」を意味する形容詞だが、近年は社会面・環境面を考慮しながら、経済活動を持続可能な形で発展させるための意味や概念として一般的に用いられている。



おおちぐん みさとちょう
島根県 邑智郡 美郷町

人口 4,157人
世帯数 2,158世帯
面積 282.92km²

島根県のほぼ中央部に位置し、広島県から島根県にかけて流れる江の川の中流域にある町。平成16年に旧邑智町と旧大和村が合併して美郷町となった。町内には効能が優れた温泉が多数あり、「美肌県美肌町」としても親しまれている。

「定住促進政策」
エッセイ

サステナブルハウス

美郷町が考える豊かな暮らしとは、自然の中で伸び伸びと子育てをするというだけではなく、「環境にやさしい」「自然と共生した」「持続可能な」暮らしであり、サステナブルな暮らしを志向するファミリー向けの移住住宅を展開し定住促進を図る「みさと」サステナブルハウス」事業が令和5年度から始まった。

- 〈具体的な施策の特徴〉
- ① 提供する住宅に太陽光パネルが標準装備
 - ② 電気自動車用コンセントが標準装備
 - ③ 新ストーブが設置できる仕様の住宅
 - ④ 家庭菜園スペースあり
- また、入居対象者を町外在住者（中学生以下の子どもがいる世帯）としており、役員内の世帯持ち職員を集めてワークショップを開催し、住宅の装備について検討を行い、住宅の内壁は調湿・消臭効果のある珪藻土を使用し、またエコキュートを導入し、太陽光発電による電力を利用した給湯設備とした。
- 構造は、木造平屋建て（延

町独自の移住・定住促進主要施策

べ床面積100㎡、敷地面積300㎡）で、道路が近いため中庭を形成し、子どもが安全に遊べる空間を提供した。家賃は6万3000円、令和5年度は6棟を建設し、今後は年間5・6棟の建設予定で、20世帯前後の移住者を見込んでいる。

〈手厚い子育て支援制度〉

- ① 子どもの医療費無料（義務教育終了まで）
- ② 保育利用料無料
- ③ 放課後児童クラブ利用料無料
- ③ 中学生向け公営塾利用料無料
- ④ こども未来応援金（美郷町内の中学校卒業者を対象に高校卒業後、各種大学専門学校進学者へ月額2万〜10万円の返還不要の給付金を支給）

〈定住ポイント制度〉

対象者の方に、転入・就職・結婚・子どもの誕生といった、様々なライフイベントの節目に応じた定住ポイントを、町内加盟店で利用できる「みさとPayカード」に付与する。（その他、住宅建設等に

係る支援制度あり。）

■調査を終えての所感
サステナブルハウスの建設は、県の補助事業にも該当しており、行政が入居者の選考や家賃徴収を行い、建設事業者へ支払う仕組みであり、民間の建築・メンテナンス手法と資金運用を有効活用した事例である。

また、子育て世代にはありがたい各支援制度をはじめ、移住・定住者のライフイベントにに応じて手厚いポイント給付を行うなど、徹底した施策を展開しており、少しでも人口流出に歯止めをかけた、美郷町に住んでもらいたいという気持ちが伝わってきた。



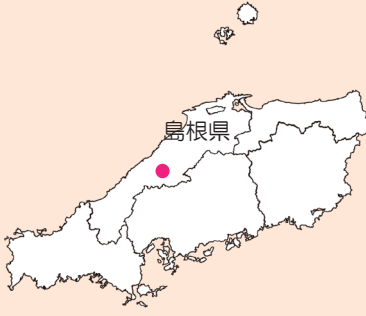
美郷暮らし推進課担当者からの説明

議会ニュース

・道外行政調査報告⑥

「邑智病院（地域医療構想）について」

地域医療構想の策定



おおちくん おおなんちよう
島根県 邑智郡 邑南町

人口 9,811人
 世帯数 4,702世帯
 面積 419.29 km²

島根県の中南部に位置し、中山間地域に代表的な盆地の多い地形で低地の割合も多く、そのほとんどが標高100m～600mの地域となっている。平成16年に旧羽須美村、旧瑞穂町、旧石見町の三町村合併により邑南町となった。

平成16年の三町村合併時の人口が1万3000人余りであったが、急激に人口減少・高齢化が進み、現在に至る。（高齢者率45・5%）

邑南町では、人口減少に歯止めをかけ、更に持続可能な社会の創生を目指し、その実現のためには、少なくとも町の医療体制が現在の施設数（医科診療所11か所、歯科診療所2か所）、規模、機能の維持が必要であると考えた。

地域内の医療体制については、公立邑智病院がその中核を担い、町内の医科歯科診療所、福祉事業所、町外の高度急性期医療機関、江津邑智消防組合などの連携が構築されているが、今後この体制を将来にわたって安定的に確保するための更なる連携強化、医療従事者の確保・育成、通院しやすい交通体系を実現すること、医療の地域格差をなくすこととし、「邑南町地域医療構想」を策定している。

また、邑南町の過去5年間で診療所3件の閉院や開業医の高齢化・後継者不在の状況が深刻化しており、将来へ向けての医療提供体制の確保と

医療福祉事業者確保・育成が喫緊の課題となっている。

地域医療構想は都道府県の事業であるが、邑南町独自の地域性を考慮した構想とするため、町内の医師会、町議会議員、福祉事業所等の13名が協議会の構成員として話し合い、地域医療の役割と連携、町が目指すべき医療提供体制の姿など、令和3年10月に地域医療構想を完成し取り組んでいる。

〈医療の役割と連携〉

● 一次医療（町内の医科歯科診療所・かかりつけ医）
 ↳ 初期治療・健康管理

● 二次医療（公立邑智病院）
 ↳ 入院・専門外来

● 三次医療（大規模病院）
 ↳ 高度・先進的医療

〈町が目指す医療提供体制〉

一次～三次医療機関をはじめ、邑智郡医師会・歯科医師会、江津邑智消防組合（救急・ドクターヘリ）、地域包括ケアシステム（各種介護サービス）などの相互連携を強化し、医師の派遣等も含めて、住民に必要な医療提供体制の確保に取り組んでいる。

また、令和4年から公立邑



邑南町の地域医療体制について説明を受ける

智病院の建て替えが始まり、令和7年のグランドオープンを目指している。（新病院建設費用：45億8600万円）

■調査を終えての所感

町内全ての医科歯科診療所（13か所）の存続維持が必要であるとの地域医療構想を掲げており、これも地域の高齢化が進み、医療機関に通院する高齢者が多いこと及び医療格差の排除が念頭にあるのだと推察する。

近い将来、我が町にも迫りくる現実であり、関係機関が連携し、医療や福祉、介護等の体制をしっかりと整えてはじめて、皆が安心して暮らせる町になると改めて感じた。